

平成 28 年度(2016 年度) ゴリ資源の現況把握調査結果

孝橋 賢一・大山 明彦・寺井 章人

1. 目 的

ヨシノボリ類稚魚である“ゴリ（ウロリ）”は琵琶湖の重要な水産資源の一つであるものの、資源生物学的な知見に乏しい。そこで、資源状況把握の一環として、ビームトロール網によるモニタリングを行った。

2. 方 法

ゴリの主要漁場である彦根市薩摩地先の水深 4m、7m、10m、13m の 4 定点および彦根市松原地先(水深約 7m)、近江八幡市沖島地先(水深約 8m)において、2016 年 5 月 12、13 日および 6 月 15 日、7 月 14 日、8 月 18 日、9 月 16 日、10 月 17 日にゴリ調査用に開発した底曳網のビームトロール網（ビーム長 3m、袋網目合い 1.4mm）により 1.2～1.5 ノットで 6 分間曳網し、魚類採集を行った。漁獲サンプルは現場にて 10%ホルマリンで固定し、後日選別を行った。外見による種判別の困難なハゼ類をゴリとし、その他をビワヨシノボリ、ヌマチチブ等に選別し、計数ならびに体長測定を行った。

3. 結 果

本調査においては、ゴリが最も多く採捕され、ビワヨシノボリ、ビワヒガイ、スジエビ、ヌマチチブ、ゼゼラ、ワカサギ等が採捕された。ゴリ採捕尾数を見ると、例年、7 月～8 月に最も多く採捕されるが、H28 では 7 月は多かったものの、8 月は少なかった。これは 7m 以浅で水草の繁茂があり、過小評価になった可能性がある(図 1)。

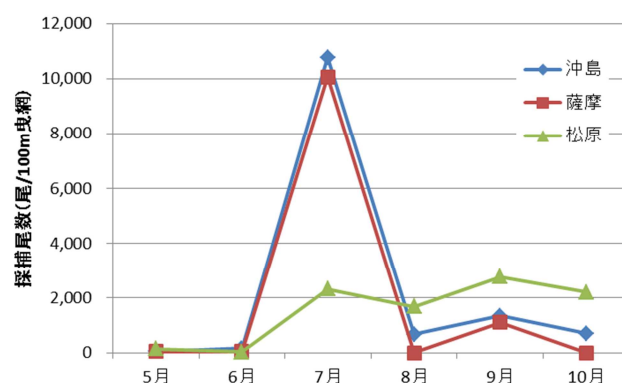


図 1 水域別採捕尾数の推移
(薩摩地先は水深 7m 定点の値)

水深別では例年同様 7～10m が最も多かった。2014～2016 年の 7 月における各水域の平均採捕尾数を比較したところ、2014 年、2015 年が 3,000 尾前後であったものが、2016 年は約 6,000 尾に増加した。(図 2)。

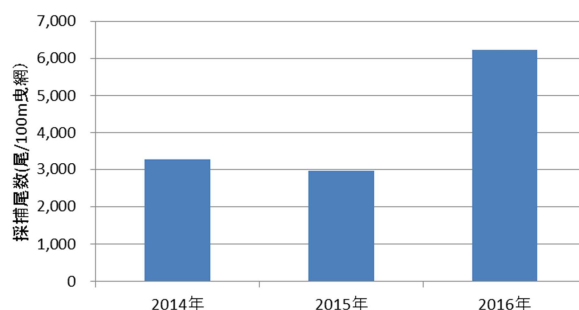


図 2 水深 7～10m における平均採捕尾数の変動(全地点平均)

今後、これら採集データの蓄積を図り、ゴリの漁況状況および環境データとの関連性を検討し、漁況予測につなげる必要がある。